

第1回松田町文化センター複合拠点化検討協議会
議事要旨

1. 日 時 平成29年10月13日(金) 14時～16時
2. 会 場 松田町役場3階 防災対策室
3. 出席者 委 員：古舘信生氏(会長)、吉田恵美子氏、木口まり子氏、武尾哲治氏、
関野敏樹氏、松隈豊氏、香川義美氏(副会長)、村野幸男氏、
今泉好夫氏、堀真記氏、遠藤洋一氏
事務局：田代副町長
政策推進課(吉田参事、柳澤、小野)
教育課(川崎)
ランドブレイン株式会社(田中)

1. 開会

- ・吉田参事

2. 委嘱状交付

(1) 田代副町長より各委員へ交付

(2) 田代副町長より挨拶

- ・施設化検討協議会、国の拠点整備交付金を活用し、町民文化センターを整備し、管理運営面に関して、多方面からご意見を頂き、今後の方向性を検討していきたい。
- ・地方の稼ぐ力を付けるということが重要である。
- ・管理運営面でも、自走できる形にもっていききたい。
- ・専門的な立場からご意見を賜りたい。

(3) 自己紹介

- ・委員名簿の順に事項紹介
- ・続いて事務局職員、委託業者も紹介

3. 設置要綱

- ・政策推進課より紹介

4. 会長選任

- ・会長は互選により選出する。
→委員より、事務局案があればとの問いに、事務局より「古舘委員」を推薦。各委員より異議は無く「古舘委員」に決定。
- ・副会長は会長が指名する。
→古舘会長より、観光協会事務局長の「香川委員」を指名。

(2) 会長挨拶

- ・松田町は2040年に人口1万人を維持するとし、そのための施策の中に、町民文化センターの複合拠点化が位置づけられている。足柄上郡の玄関口として活性化を図っていききたい。

(3) 副会長

- ・昨年から観光協会の事務局長を務めており、町民文化センターが活用されていないと感じていた。松田町は交通の拠点であり、新たな活性化につながると考えている。活発な意見をお願いしたい。

5. 議題

- ・本日の協議会は過半数の出席があり、会が成立している。

(1) 整備事業の概要について

- ・資料3について政策推進課より説明

- 町民文化センターは、35年前に足柄地域で最初に建設された。町だけのものではなく、1,000人収容の大ホールなど、広域的な視点で建てられたものと考えられる。
- その後は類似の施設も建てられ、施設自体も老朽化し、利活用が少なくなってきた。
- 過去の検討会においても、建て替えなどの議論もあったが、当面延命措置によって、お金を掛けずに利用の促進を図る事とされた。
- 施設は老朽化し、いろいろガタが来ているが、地方創生の取組みの中で、拠点整備交付金を活用できる事となった。
- 本来、地方創生はソフト事業の創意工夫を主眼としているものであったが、ハード事業についても支援策が講じられた。それが、拠点整備交付金である。
- しかし、老朽化したものを改修するだけの事業では、交付金がもらえなかった。この取組みにより、地域にどの程度経済が回るのか、地域が活性化するののかという点を考えなければならなかった。
- 再度、オンリーワンの施設を目指そうと位置付けた。他所が行っていないモノを盛り込み、足柄地域の賑わいを創出する拠点にしようと考えた。
- 施設の文化機能に加えて、未病にもつながるスポーツという要素を取り入れる中で「スポーツクライミング」に着目した。世界的にも日本人が活躍している。
- もう一つ、国際交流の視点を入れる事とした。町の行事においても、国際交流の促進を図っており、語学が堪能な町民ボランティアに支えてもらっている。
- 国際交流の推進に向けて、組織化を図ろうとしている。組織によってインバウンドなどに取り組む。合わせて、外国人向けホームページの作成を想定している。
- 国際交流の拠点（基地）として、文化センターに位置付ける事とした。
- 行政だけではうまく進められないことが多いので、民間の皆様のご意見を頂きながら進めて行きたいと考えている。
- 具体の整備内容(イメージについて)。
- 13mのリードクライミングウォールを第2駐車場側の壁に設置する。施設が大きく変わる広告塔にもなると考えている。
- 1,000人規模の大ホールの奥壁にボルダリングウォールを設置する。
- パワーリフティングルームを書庫に設置を想定していたが、書庫機能は重要のため、3階に整備する予定。
- レストルームとなる楽屋部分について、休憩機能、シャワー機能などを拡充する。
- 青空広場は、町民のたまり場を設ける意味で、雨を凌げるヒサンを設置する。椅子テーブルも置き、休憩できるようにしたい。
- 未病改善キッチンとは、未病改善に向けた新たな料理の開発などを想定した施設である。

- 大きくくりで3つあると考えてもらいたい。1つはクライミングウォール。2つ目はホール
の設備。3つ目は未病キッチンなど、その他の機能整備。
- H30には、国際交流基地（サロン、カフェ）、事務機能などを設ける予定。

・資料4について教育課より説明

- 雨漏りなど問題が発生しているため、H28年4月から一般の利用をストップしている。
- ロープクライミングは、ロープを使って2人1組で取り組む競技協議である。屋外な
ので、耐久性のあるFRP製とする。
- ホールにはボルダリングウォールを設置し、普及啓発も想定している。
- プロ仕様に特化しないが、国体の県大会レベル公式大会の開催が可能。
- 工事について大きく3つに分けて考えている。
- 1つ目はウォールの設置に関してであり、2つ目はホール設備について更新などを図って
いく。既に入札が終わり、施工業者が決定している。
- 残された3つ目のレストルームなどは、プロポーザル方式での発注を行う予定。
- ウォールの設置に関して舞台側へ制約も生じるが、様々な活用が出来るように整備してい
く。

(2) 施設見学

- ・現場視察 35分程度。駐車場、楽屋、ホール（舞台）、パワーリフティング、の順番に説明
＜ご意見、質問など＞
- ・音楽活動という点で、施設が不十分になるのではないかと不安がある。
 - この設備で講演しても良いという方に来て欲しい。
- ・パワーリフティングルームは未病のための設置か。
 - パワーリフティングは特殊なイメージがあり、違和感がある。自転車やランニングマシー
ンの方がなじみがある。
 - パワーリフティングルームという名前がふさわしいのかという問題もある。ダンベルクラ
ブという団体施設が松田町にあり、そこでは、高齢者でも簡単に使えるような方法で使用
している。バイクやランニングマシーンを置く予定である。
- ・トレーニングルームと呼んだ方が良いと思う。
- ・こういった方法しかなかったのかとも思うがホールの整備によって、ホールで、中学生の吹
奏楽など大丈夫か不安がある。できること、できないことをを明確にして過大評価しないほう
が良い。中学生の吹奏楽など大丈夫か不安がある。
- ・町民になじむものが良い。体育施設など管理する人がいないといけないと思う。
- ・リードクライミングについて、公式大会を開催しようとしても雨の場合はどうするのか。
- ・屋外の場合、雨の場合は実施しない。天候に左右される。屋根を付ける場所もある。
- ・秦野の戸川公園にあるクライミング施設は屋外だが、どうなっているのか。
- ・国体などの公式大会は難しいが、ブロック大会など予選は実施できると思う。
 - リードウォールは公式大会には対応していないが、ボルダリングウォールはそれなりの規
格である。
- ・この計画に魅力を感じているのは、ステージ以外に見る場所がある点である。MCや照明が
ついた中で、ゲーム感覚で観客にも楽しんでもらうには良い場所であると感じている。
- ・リードよりボルダリング人口の方が多いか。

- リードは2人で行うがボルダリングは1人でできるので、ボルダリング人口の方が多い。
- ・大名行列の道具は大切な文化財だと思うが、お互いに共存できるように考えてほしい。邪魔だから退かすという考えは持ってほしくない。
- 倉庫に眠らせておくのがもったいないので、できればディスプレイしたいと考えているが、日当たりなど保管方法や安全管理の課題は有ると思うが、有効に活用したいので、難しい状況でもある。
- ・小学校に置いてはどうかという意見もあったが、知らない人が入ってくるという点に懸念があった。
- ・トイレは洋式か和式であるか。
- 1階部分に一部洋式があるが、和式である。~~だったと思う~~。障害者対応も必要になると思う。
- 国の説明会では、単なる修繕は認められない。国際交流対策として洋式の要望があったが、国は断固として認めなかった経緯がある。
- ・今後の活用に向けて、ボルダリングやリフティング以外のスポーツに着目しているものはあるのか？今後、イメージとしても多様なスポーツに対応していった方が良いと思う。
- スポーツに特化するつもりはなく、あくまで文化との融合がメインとなる。図書館には本を読むスペースが少ないので、青空広場もテーブルと椅子で本を読む場所にもなりえると考えている。
- ホールの中にウォールがある事が大きな強みであり、インパクトとなる。新たなスポーツについては頭が回っていないが、この特徴を掛け算して活用していきたい。文化的な視点も含めて、大ホールをいかに生かしていくか工夫していきたい。
- ・公民館で紙芝居や読み聞かせをやっている。「文化センター複合拠点施設化協議会」として、公民館としての機能がどの程度削られるのか。
- 公民館機能は残る。今使っている機能が低減されるということは考えていない。
- ・観光の視点では中々難しいが、客席のあるボルダリングは面白いと思う。演出して見せるモノとしていく事は面白いと思う。町民文化センターという名前すら変更していくくらいでないと、観光施設にはなりえないかと思う。
- ・リード、ボルダリング、スピードの3種類を合わせた競技をオリンピックで行うと聞いているが、これから作る施設は対応できるのか。
- ・IOCが金メダルを出す余裕があれば、それぞれ単独の競技にできるが、まだまだ世界的に広まっていないので、3種混合扱いになっている。
- ・ボルダリングのエンターテイメント性が注目されている。東京オリンピック、パラリンピックでは、リフティングは国際フォーラムの舞台で行う。ホールでのエンターテイメント性を高めたスポーツは、今後増えていくのではないか。
- ・国際交流の視点から、施設の英語名はあるのか？キャッチーな愛称などがあった方が良いと思う。
- ・一般的な町民から考えると、協議会で整備内容を考えたように思われてしまう。協議会では、整備内容が決まっているなかで利活用について話し合っているなので、その辺をはっきりしてほしい。
- ・今回の協議会は利活用の検討であって、整備内容は国の補助金で決まっており、議会でも承

認されている内容である事を明記しておいてほしい。

6. その他

- ・第2回は11月7日 14:00～
- ・第3回は11月30日 14:00～

7. 閉会（古館会長より）

- ・新しくなることに期待するが、文化的機能も大切にしていきたい。
- ・稼ぐという視点で、40,000千円の赤字の解消も図っていきたい。

以上